

■児童・生徒の学力の状況

令和8年度「全国学力・学習状況調査」より

<本校における全体の概要>

○国語・算数・理科の全教科で全国平均を上回る（算数・理科は都平均も上回る）。

<教科別>

【国】○「話す・聞く」「言葉の特徴」「言語文化」の正答率が高く定着している。

【国】●漢字の書き取りや文章の叙述・構成を捉えて要旨をまとめる記述力に課題。

【算】○「数と計算」「図形」「測定」など知識・技能を中心に全国・都平均を上回る。

【算】●「変化と関係」「割合」「帯グラフの読み取り」など思考・判断・表現に課題。

【理】○知識・技能を中心に全国・都平均を上回る。

【理】●エネルギー領域（電気の性質や身近な金属）の理解に課題。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○国語科（物語文等）における文章の叙述に基づいた丁寧な読解と、それに応じた適切な記述・文章構成力の向上。

○グラフや割合など、視覚・概念的な情報を正確に読み解き、論理的な根拠をもって表現する算数科の学習の工夫。

○板橋区授業スタンダードSの実践を通じた、児童が自ら学び方や課題を選択できる「セルフ（Self/Select）」の推進。

○ICT（オクリンクプラス、Googleドキュメント・スライド等）を活用した思考の可視化と相互交流の深化。

○「居場所」と「出番」を保証し、自己肯定感・学びの有用感を高める指導と家庭学習習慣（学年×10分）の定着。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「子どもが主役の学校」の実現：授業の流れ（学習課題・めあての設定 → 自力解決 → 集団解決 → まとめ・振り返り）を徹底し、一人ひとりの「居場所」と「出番」を保証する。

○「板橋区授業スタンダードS」と校内研究の推進：児童が自ら方法等を選択（Select）する「授業スタンダードS」を取り入れ、主体的な学びを促す。また、校内研究「主体的に学習に取り組み自分の考えを表現する児童の育成～『児童の視点』による授業作り～」を全学年で実践し、国語科（物語文）での叙述に基づいた読解と、「問い」を通じた表現力の向上を図る。

○対話・話し合い活動と本物からの学び：小グループでの意見交流（根拠をもった対話）と外部・地域講師と連携した体験的授業（本物との出会い）により知的好奇心を高める。

○家庭学習の充実：保護者と連携し、「学年×10分間（1年生は20分間）」の家庭学習（一人一台端末の活用含む）により基礎・基本の定着と学びに向かう力を育てる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組○「めあて・振り返り」とゴールイメージの共有を毎時間徹底する。
○叙述に基づく確実な読み取りと、自ら「問い」を立てて表現する学習を設定する。
○学習方法等を自己選択（Select）できる場面を設け、主体的に発信する力を培う。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現○オクリンクプラスやGoogleツールで考えを共有・共同編集し、表現力を高める。
○端末やデジタル教材を家庭学習と連動させ、漢字や基礎的・基本的な内容を定着させる。
○根拠に基づく意見交流を通し、互いの考えを高め合う協働的な学びを推進する。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○70周年行事やiCS等と連携し、児童の疑問や関心に基づく探究的な課題を設定する。
○各教科で培った読解力やデータ分析力を活用した教科横断的な単元計画を実践する。
○環境・防災教育や、地域資源を活用した「本物から学ぶ」体験的学習を実施する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○学びのエリア（4校）での一貫指導：4校合同の研修会や情報交換を通して、ノート指導・発表方法・根拠（叙述）に基づいた話し合い活動の視点について共通理解を図り、9年間を見通した「読み解く力」と確かな表現力を育成する。 ○「板橋スタンダードS」の定着・実践：児童が学習内容や方法等を自己選択・自己決定できる場面を意図的に設定し、自分に合った学び方を考え、学習の進め方を自己調整しながら主体的に学ぶ力を育成する授業を、全学年・全教科で実践する。	○人権・道徳・特別活動の充実：異年齢集団活動の「ニコはす班」活動や道徳教育を通して、「Win-Winを考える」「まず理解に徹し、そして理解される（傾聴）」心を育てる。 ○いじめ防止とSOSの出し方：Web-QUやふれあい月間アンケートの活用、校内いじめ防止対策委員会の機能強化により、安心して自分の考えや根拠を発信できる学級基盤を作る。 ○体力向上と基本的な生活習慣：「早寝・早起き・朝ごはん・運動」の定着を図るとともに、体育の授業充実・計画的な体力づくりで「チャレンジを楽しむ子」を育成する。	○個に応じた読み・学びの保障と指導の工夫：「読み書きアセスメント」を活用して児童の課題を把握し、児童一人ひとりに応じた支援を行う。叙述の読み取りや算数の思考場面で選択肢を用意し、主体的に学習に取り組める環境を整える。 ○特別支援教育の理解と自己調整力の育成：ソーシャルスキルトレーニング（SST）やストレスマネジメントを取り入れ、気分のコントロールや社会性を育む。習熟度別少人数指導やICTの個別活用を進め、誰一人取り残さず「分かる・できる・楽しい」を実感させる授業と居場所づくりを推進する。